

水神神社の由来

- 所在地 輪之内町東大藪
- 時代 宝暦8年（1758）

宝暦五年（1755）に薩摩藩のお手伝普請による「薩摩堰」が完成したが、その後の出水で用をなさなくなった。そこで、洗堰組合が宝暦8（1758）年、その上流に「大樽川洗堰」を構築した。

江戸末期に画かれた大樽川洗堰の鳥瞰図には、二番猿尾の頂上部に祠が画かれている。この祠が水神神社である。度重なる水禍を鎮めようと祭神に水波能売命みずはのめのかみを祀り、86カ村の受益村が祭祀を斉行してきた。

その後、明治32年12月に木曾川改修工事が終結し、大樽川の閉鎖によって祠を大藪渡船に通ずる坂路上に遷した。その後、堤防のかさ上げ工事があり、祠を治水功労者片野万右衛門の顕彰碑の脇に遷座し、洗堰組合が祭祀を厳修した。そして、昭和初期に現在地に社殿を新築し遷宮祭を斉行した。ついで昭和54年に神域を玉垣で囲み整備した。



水神神社